

ロシアから視察団が来訪されました。

医療法人社団 健育会 理事長 竹川 節男



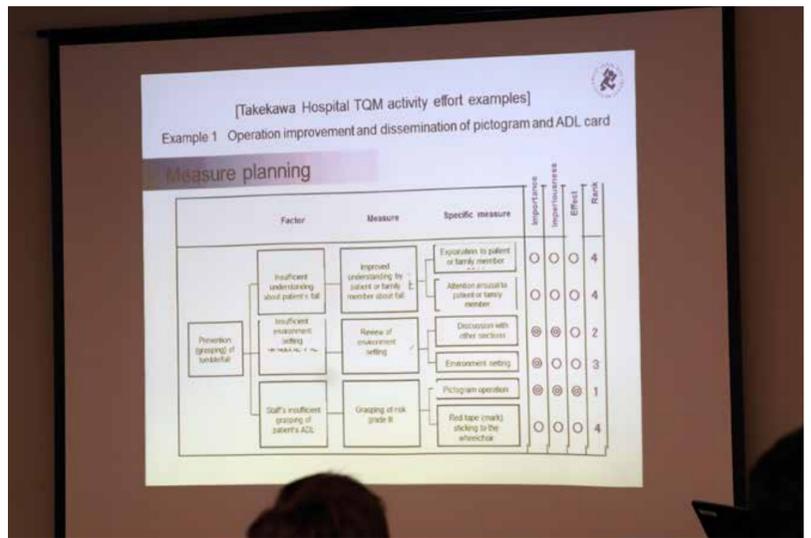
2018年11月20日、ロシア連邦からの視察団が、日本におけるリハビリテーションについての知見を深めるため、竹川病院を訪問されました。

ロシアからの視察団は全6名で、ロシア連邦保健省やロシア国立心臓研究センターなどで要職を務める役人や医師達とのことでした。ロシアでは他の先進国と比較すると人口における高齢者の割合は少し低いようですが、現在の人口増加率の低さや出生率を考え合わせると、今後は高齢者人口が増加していくとの予測が立てられています。そこで新たな医療・社会インフラの整備が急務となっており、高齢化社会への対応が進んでいる日本のリハビリテーションや介護について視察にこられたようです。

今回の彼らの来日については、11月20日から11月22日に開催されていたHOSPEX JAPAN 2018に参加することが主目的でしたが、視察団より「日本で行われている「医療の改善活動、について学びたい」とのご要望があり、厚生労働省を通じて健育会グループの竹川病院をご推薦いただき、ロシア視察団の来院が実現しました。



竹川病院の事務局からは、「健育会グループにおける医療の質改善（TQM）活動の紹介」として、グループ全体のTQM活動の歴史や取り組みなどを紹介すると共に、実際にTQM活動として取り組みを行っている「ピクトグラム・ADLカードの運用改善及び周知について」と「セラピスト吸引ライセンス発行システムの作成」について、その内容をご紹介しました。その後、病棟を見学していただきました。



ロシアでは、長期リハビリテーションの必要性が認識されたのは比較的最近であり、しかもリハビリテーションは医師が中心に行っているとのこともあり、リハビリテーションにおいてセラピストが活躍する様子には大変興味深くご覧いただいたようです。また、電子カルテの導入もこれからとのこと、カルテの仕組みなどについて質問がありました。



その後の質疑応答では、リハビリテーションの年間の入院患者数やリハビリの実施時間、病院の運営、日本の保険制度等について、たくさんのご質問を受けました。



このような海外の視察団に日本の病院を代表してご見学いただくことは嬉しい事ですし、職員にとっても良い刺激になると思います。また、今回もご見学中に彼らが他国の病院を視察したときのエピソードなど、新しい情報をいただく機会にもなりました。

日本は早くから高齢化が進んだことにより、介護事業における効率的な仕組みは、世界的に見ても突出していると考えています。また、トヨタを代表として「改善」についても取り組みが進んでおり、その活動は海外でも「Kaizen」とそのまま表現されるほどです。健育会グループにおいても、グループ全体で力を入れてTQM活動に取り組んでおり、「一般社団法人 医療のTQM推進協議会」が年に1回開催している「医療の改善活動 全国大会」においても、ここ数年毎年優秀演題として病院・施設の取り組みが表彰されるほどに、成長してきています。

このような日々の活動を通じて蓄積してきた仕組み・ノウハウを通じて、これから高齢化という課題を抱える国々へ貢献できることは素晴らしいことだと感じています。これからも、国内外の皆さまに参考にしてもらえるような質の高い取り組みを発信できるグループであり続けられるよう、職員の皆さんのさらなる成長に期待しています。

